

平成19年度当初予算案の概要

平成19年2月
宮 城 県

予算編成の基本的考え方

日本経済は、民間需要中心の回復が続き、自律的・持続的な経済成長が見込まれているが、地域間でばらつきがみられ、景気回復は一様ではない状況

歳入では、法人関係税が一定程度増加するとともに、三位一体改革による税源移譲に伴い、個人県民税の大幅な増加が見込まれるものの、地方一般財源の総額は平成16年度に大幅に削減された水準で維持され、地方交付税等の減少が見込まれるため、本県財政は引き続き多額の財源不足が発生し、極めて厳しい状況

一方、歳出では、今後とも社会保障関係経費等の増加が見込まれるため、簡素で効率的な行政システムを確立し、持続可能な行政運営への転換を図ることが急務

平成19年度当初予算は、「宮城の将来ビジョン」の初年度に当たる予算であることを基本認識とし、新・財政再建推進プログラムや事業総点検の取組を踏まえ、徹底した歳入確保対策と歳出抑制対策を講じることにより、限られた財源を効率的・重点的に配分することで編成

主な対策については、

- ・ 歳入では、県債の活用や財源調整機能を果たす基金の取崩し等による対応を行うつつ、県有財産の売却や広告収入の計上など、できる限りの収入を確保
- ・ 歳出では、事業総点検の取組を反映し、内部管理経費を含む徹底した歳出の見直しを行ったほか、公債費の平準化や県債の新規発行総額の抑制等に努力

県政運営の基本的な指針となる「宮城の将来ビジョン」の確実なスタートを切るため、政策推進の基本方向に沿った事業の具体化に努めることとし、特に「富県宮城の実現」については、製造業の集積促進や観光、農林水産業の強化など、積極的に予算化

- 1 富県宮城の実現 ～県内総生産10兆円への挑戦～
- 2 安心と活力に満ちた地域社会づくり
- 3 人と自然が調和した美しく安全な県土づくり